

平成20年度飼料作物、牧草類系統適応性検定試験
平成20年度飼料作物、牧草類系統適応性検定試験

白川 朗・三谷英嗣・今雪幹也

Adaptability test for a variety of forage crops and grasses.
(2008. 4~2009. 3)

Akira SHIRAKAWA, Hidetsugu MITANI, Mikiya IMAYUKI

要 約

牧草、飼料作物育種指定試験地において育成されたイタリアンライグラス、トールフェスク、ホールクロップサイレージ用ソルガムの新系統について、「飼料作物系統適応性検定試験実施要領」（改訂5版）に基づき、香川県での栽培、利用環境における適応性を検討した。

イタリアンライグラスは、山系33号の標準播き（10月上旬播き）と遅播き（11月中旬の遅播き）および友系30号の検定をそれぞれ1番草2番草で実施した。山系33号の発芽及び定着時草勢は良好で、標準播き及び遅播きとも生草・乾物収量ともに多く、特に遅播きでの収量性の高さが示された。友系30号の発芽及び定着時草勢は良好であった。草丈が1番草2番草ともかなり大きくなり、また耐倒伏性は高かった。生草・乾物収量はともに標準品種よりやや劣った。

トールフェスクは、九州14号15号の検定を実施した。両種とも出穂始めが標準品種よりも5日程度早かった。生草・乾物収量については、14号が標準品種を大きく上回り、15号は標準品種と同程度であった。

ホールクロップサイレージ用ソルガムでは、スーダン型の東山交31号、兼用型の東山交33号および兼用型の東山交34号の検定を実施した。3種とも発芽及び初期生育は良好であった。31号は収量が標準品種より少なく、比較品種より多かった。33号、34号ともに生草収量、乾物収量が標準品種、比較品種を上回った。

I イタリアンライグラス（山系33号）

目 的

山口県農林総合技術センターで育成された、イタリアンライグラスの系統について、当地域における適応性を検討した。

試験方法

「飼料作物系統適応性検定試験実施要領」（改訂5版）に基づき実施した。

1. 供試品種系統名

山系33号、◎ワセユタカ、○ナガハヒカリ、○タチマサリ

◎は標準品種、○は比較品種

平成 20 年度飼料作物、牧草類系統適応性検定試験

2. 試験区面積・区制 1区面積6㎡・4区制（4反復）

3. 栽培概要

- 1) 播種期 標準播き区：平成19年10月3日
遅播き区：平成19年11月14日
- 2) 播種法 条播（畦間30cm 播幅10cm）
- 3) 播種量 山系33号・ナガハヒカリ：250g/a
ワセユタカ・タチマサリ：150g/a
- 4) 施肥量(kg/a)

基肥	N	0.84	P ₂ O ₅	1.62	K ₂ O	0.72
追肥	N	0.64	P ₂ O ₅	—	K ₂ O	0.64（各刈取毎）

5) 刈取時期

	年内刈	1番草	2番草
標準播き区	—	4月22日	5月14日
遅播き区	—	4月28日	5月26日

成績

1. 気象概要

試験期間中の平均気温は、平成19年2月に平年値を下回った以外、概ね平年を上回って推移した。平成19年の9月、10月および平成20年の7月は平年値を2度以上上回った。降水量については、平成19年12月から平成20年6月までは平年値を上回り、平成19年から11月まで、平成20年6月から10月までは平年値を下回った。特に7月は極端に少なく、渇水となった。（図1、図2）

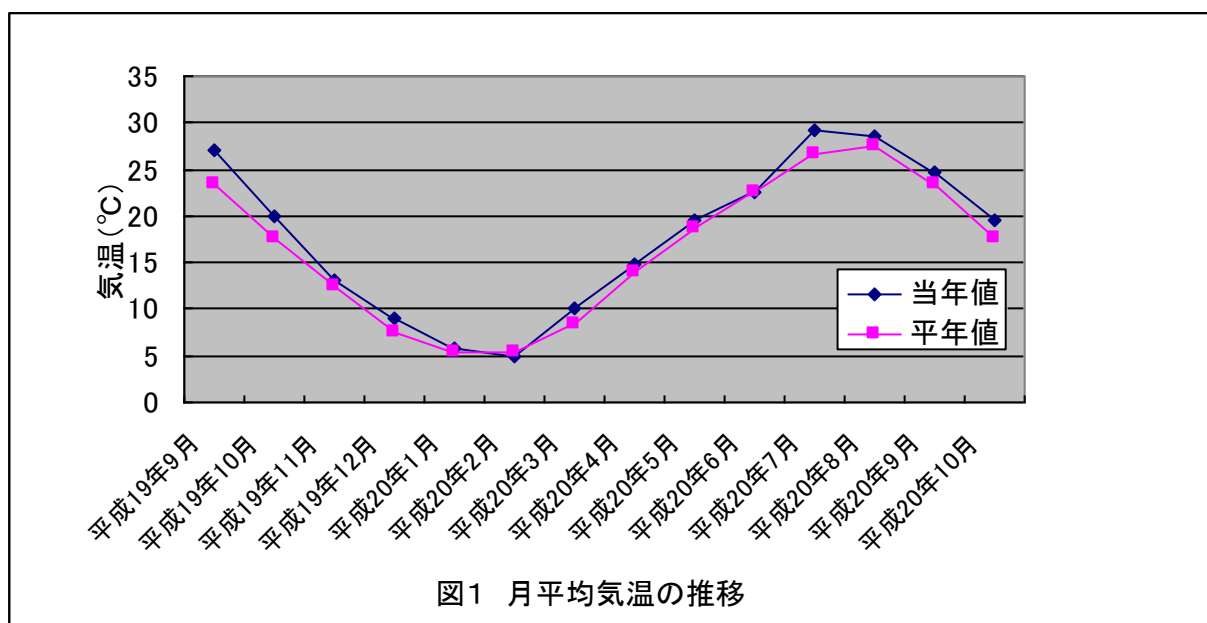


図1 月平均気温の推移

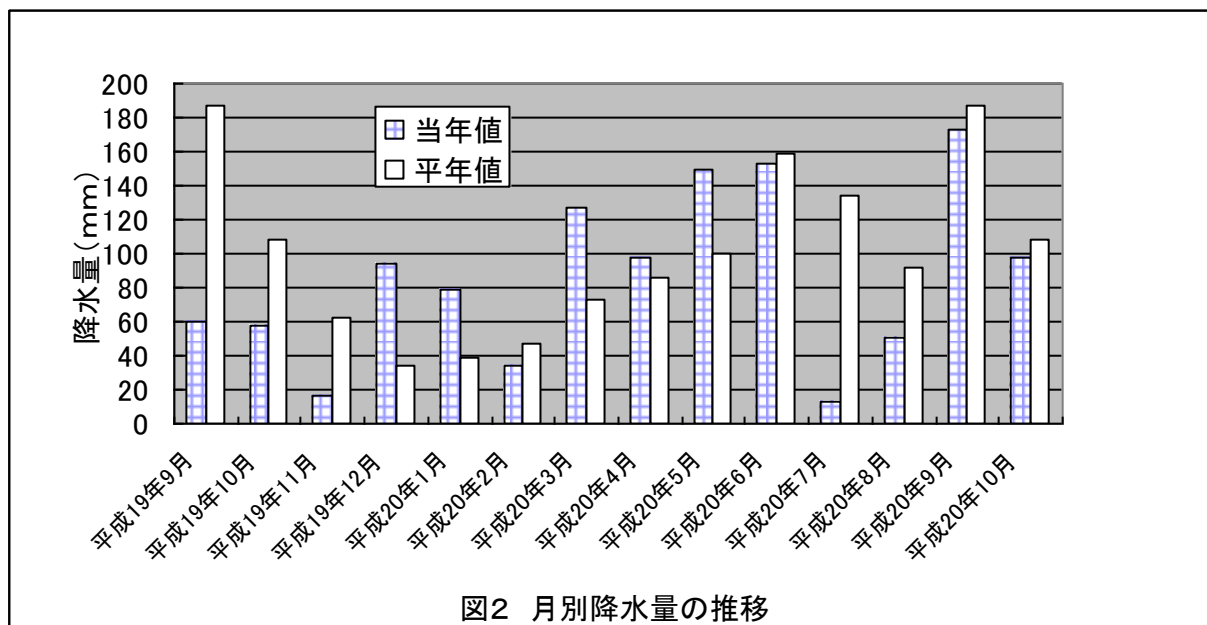


図2 月別降水量の推移

1. 生育概要

(1) 標準播き区

発芽および定着時草勢については、どの種も概ね良好で、病害や虫害の発生は無かった。草丈は1番草2番草ともに33号が最も高かった。出穂期はナガハヒカリが最も遅かった。ワセユタカの倒伏程度が1番草2番草でも高かった。(表1、表2)

(2) 遅播き区

発芽および定着時草勢については、ワセユタカとタチマサリがやや劣り、他の品種は概ね良好であった。発芽直後の立枯れ症が全種において観られ、冠さび病が33号以外で、斑点病がワセユタカとタチマサリで観られた。(表1、表2)

2. 収量特性

(1) 標準播き区

生草収量については1番草2番草ともにナガハヒカリが最も多かった。乾物収量については1番草で33号が、2番草でナガハヒカリが最も多く、1番草2番草の合計では33号が最も多かった。(表3)

(2) 遅播き区

生草収量については1番草で33号が、2番草でナガハヒカリ最も多く、1番草2番草の合計では33号が最も多かった。乾物収量についても1番草で33号が、2番草でナガハヒカリが最も多く、1番草2番草の合計では33号が最も多かった。(表3)

育成系統の概評

1. 山系33号：標準播き区

発芽及び定着時草勢は良好で、病害や虫害の発生は無かった。出穂期はワセユタカやタチマサリと同時期で、草丈は1番草2番草ともに最も高く、倒伏も他の品種と同程度であった。1番草2番草の合計生草収量はナガハヒカリを下回ったものの、その乾物収量はナガハ香川畜試報告、44 (2009)、84-96

平成 20 年度飼料作物、牧草類系統適応性検定試験

ヒカリを上回り、乾物率の高さが示された。(表1、表2、表3)

2. 山系33号：遅播き区

発芽及び定着時草勢は良好であった。発芽直後の立枯れ症がやや観られたものの、その他の病害や虫害の発生は無かった。出穂期はワセユタカやタチマサリ2日から4日遅かったが、草丈は1番草2番草ともに最も高かった。倒伏は、1番草で他の品種よりやや多く観られた。1番草2番草の合計生草収量は最も多く、合計乾物収量は標準品種を大きく上回る結果となった。(表1、表2、表3)

表1 生育特性1

区分	品種系統名	発芽 良否	発芽直 後の立 枯れ	定着時 草勢	病害程度			虫害程度
					イモチ 病	冠さび 病	斑点病	アブラムシ
標準 播き 区	山系33号	8.3	1.0	8.5	1.0	1.0	1.0	1.0
	ワセユタカ	7.3	1.0	7.5	1.0	1.0	1.0	1.0
	ナガハヒカリ	7.8	1.0	8.5	1.0	1.0	1.0	1.0
	タチマサリ	7.8	1.0	8.0	1.0	1.0	1.0	1.0
遅播 き区	山系33号	7.0	2.0	7.5	1.0	1.0	1.0	1.3
	ワセユタカ	3.8	4.3	3.8	1.0	1.3	1.3	1.0
	ナガハヒカリ	7.3	1.8	7.5	1.0	1.5	1.0	1.0
	タチマサリ	5.5	2.5	5.3	1.0	1.8	2.3	1.3

注 発芽良否・定着時草勢：極不良 1～極良 9

立枯れ・病虫害：無または軽微 1～甚 9

表2 生育特性2

区分	品種系統名	出穂 期	刈取時出穂程度		倒伏程度		草丈 (cm)	
			1番草	2番草	1番草	2番草	1番草	2番草
標準 播き 区	山系33号	4/18	8.3	8.0	5.0	1.0	150.2	89.3
	ワセユタカ	4/18	9.0	8.5	7.0	3.8	147.9	86.5
	ナガハヒカリ	—	1.5	5.3	3.5	1.0	143.7	87.5
	タチマサリ	4/17	9.0	8.5	5.0	1.0	147.8	87.8
遅播 き区	山系33号	4/25	8.0	6.3	1.5	1.0	136.5	86.2
	ワセユタカ	4/23	8.3	7.8	1.0	1.0	121.5	83.4
	ナガハヒカリ	—	2.0	3.0	1.0	1.0	131.1	84.8
	タチマサリ	4/21	9.0	7.8	1.0	1.0	134.2	80.2

平成 20 年度飼料作物、牧草類系統適応性検定試験

表3 収量特性

区分	品種系統名	生草収量 (kg/a)			対標比 (%)	乾物収量 (kg/a)			対標比 (%)
		1 番草	2 番草	合計		1 番草	2 番草	合計	
標準播き区	山系 3 3 号	971.4	267.7	1239.1	119	142.7	36.4	179.1	110
	ワセユタカ	815.6	225.0	1040.6	100	128.0	35.2	163.2	100
	ナガハヒカリ	1011.5	295.9	1307.3	126	134.1	37.4	171.5	105
	タチマサリ	808.9	235.4	1044.3	100	122.0	35.9	157.9	97
遅播き区	山系 3 3 号	555.8	354.2	910.0	160	92.4	37.2	129.5	135
	ワセユタカ	294.3	274.5	568.8	100	59.9	36.3	96.1	100
	ナガハヒカリ	539.1	369.3	908.4	160	86.1	40.9	127.0	132
	タチマサリ	354.7	282.3	637.0	112	73.7	37.8	111.5	116

II イタリアンライグラス (友30号)

目 的

茨城県畜産センターで育成された、イタリアンライグラスの系統について、当地域における適応性を検討した。

試験方法

「飼料作物系統適応性検定試験実施要領」(改訂5版)に基づき実施した。

1. 供試品種系統名

友系30号、◎タチムシャ、○ドライアン

◎は標準品種、○は比較品種

2. 試験区面積・区制 1区面積6m²・4区制(4反復)

3. 栽培概要

- 1) 播種期 : 平成19年10月3日
- 2) 播種法 : 条播(畦間30cm 播幅10cm)
- 3) 播種量 : 150g/a
- 4) 施肥量(kg/a)

基 肥 N 0.84 P₂O₅ 1.62 K₂O 0.72

追 肥 N 0.64 P₂O₅ — K₂O 0.64 (各刈取毎)

5) 刈取時期

1 番草	2 番草
4月23日	5月16日

成 績

1. 気象概要

イタリアンライグラス（山系33号）の項参照

2. 生育概要

発芽および定着時草勢については、どの種も概ね良好であった。すべての種で軽微の冠さび病の発生があり、アブラムシの付着がタチムシャとドライアンで観られた。出穂始めはほぼ同時期で、草丈は1番草2番草ともに30号が最も高かった。また、すべての種で同程度の倒伏が観られた。（表4、表5）

3. 収量特性

生草収量は、1番草でドライアン、2番草でタチムシャ、合計でタチムシャが最も多かった。乾物収量は、1番草2番草ともにタチムシャ最も多かった。（表6）

育成系統の概評

友系33号：

発芽、初期草勢ともに良好であったが、軽微の冠さび病の発生が観られた。草丈は標準品種、比較品種を上回った。倒伏は同程度であった。生草収量および乾物収量は、ともに比較品種を上回り、標準品種を下回った。（表4、表5、表6）

表 4 生育特性 1

品種系統名	発芽良否	定着時 草勢	病害程度		虫害
			いもち病	冠さび病	アブラムシ
友系 30 号	7.3	7.5	1.0	1.8	1.0
タチムシャ	7.0	7.0	1.0	1.3	1.5
ドライアン	6.5	6.5	1.0	1.5	1.8

注 発芽良否・定着時草勢：極不良 1～極良 9

病虫害：無または軽微 1～甚 9

表 5 生育特性 2

品種系統名	出穂始	刈取時出穂程度		倒伏程度		草丈 (cm)	
		1 番草	2 番草	1 番草	2 番草	1 番草	2 番草
友系 30 号	4/14	8.0	8.0	5.0	1.0	154.5	87.6
タチムシャ	4/13	6.5	7.8	5.0	1.0	143.1	81.1
ドライアン	4/14	6.0	7.8	4.3	1.0	129.1	63.5

注 出穂程度：無または極少 1～極多 9

倒伏程度：無または極微 1～甚 9

平成 20 年度飼料作物、牧草類系統適応性検定試験

表 6 収量特性

品種系統名	生草収量 (kg/a)			対標比 (%)	乾物率 (%)			乾物収量 (kg/a)			対標比 (%)
	1 番草	2 番草	合計		1 番草	2 番草	平均	1 番草	2 番草	合計	
友系 30 号	905.2	215.6	1120.8	97.6	14.8	15.1	14.9	134.0	32.6	166.6	97.5
タチムシャ	908.3	239.9	1148.2	100.0	14.8	15.2	15.0	134.4	36.5	170.9	100.0
ドライアン	933.2	182.9	1116.1	97.2	13.8	15.0	14.4	129.0	27.4	156.4	91.5

II トールフェスク (九州14号・15号)

目 的

(独)九州沖縄農業研究センターで育成された、トールフェスクの系統について、当地域における適応性を検討した。

試験方法

「飼料作物系統適応性検定試験実施要領」(改訂5版)に基づき実施した。

1. 供試品種系統名

九州14号、九州15号、◎ナンリョウ

◎は標準品種

2. 試験区面積・区制 1区面積6m²・4区制(4反復)

3. 栽培概要

- 1) 播種期 平成17年9月27日
- 2) 播種法 条播(畦間30cm 播幅10cm)
- 3) 播種量 200g/a
- 4) 施肥量(kg/a)

基肥	N	0.84	P ₂ O ₅	1.62	K ₂ O	0.72
追肥	N	0.64	P ₂ O ₅	—	K ₂ O	0.64 (各刈取後)

5) 刈取時期

1番草	平成20年 4月14日	2番草	平成20年5月20日
2番草	平成20年 6月30日	4番草	平成20年9月22日
5番草	平成20年10月30日		

成 績

1. 気象概要

イタリアンライグラスの項参照

2. 生育概要

1番草の生育は概ね良好で、出穂始は昨年より10日前後遅かった。病害については、2香川畜試報告、44(2009)、84-96

平成 20 年度飼料作物、牧草類系統適応性検定試験

番草 3 番草で冠さび病が観られ、2 番草の 14 号 15 号、4 番草の 14 号、5 番草の 3 種でいもち病の発生が観られた。虫害については、1 番草の 3 種および 4 番草の 14 号でアブラムシの付着が観られた。草丈は、1 番草で 15 号、2 番草でナンリョウ、3 番草でナンリョウ、4 番草で 15 号、5 番草で 14 号が最も高かった。倒伏は 3 番草の 3 種で軽微に観られた。(表 7、表 8)

3. 収量特性

生草収量は、1 番草でナンリョウ、2 番草でもナンリョウ、3 番草で 14 号、4 番草で 15 号、5 番草で 14 号が最も多く、合計では 14 号が最も多かった。また、どの品種においても 1 番草が多く、次いで多かったのが 3 番草であった。

乾物収量は、1 番草でナンリョウ、2 番草でもナンリョウ、3 番草で 14 号、4 番草で 15 号、5 番草で 14 号が最も多く、合計では 14 号が最も多かった。また、乾物率については、横並びであった。(表 9)

育成系統の概評

1. 九州14号：

1 番草の出穂始は標準品種より 5 日早かった。冠さび病の発生は標準品種と同程度であったものの、標準品種には発生が観られない時期にも、軽微のいもち病の発生が観られた。また、標準品種には付着が観られない時期にも、アブラムシの付着が観られた。

5 回の収穫を通して、草丈が標準品種よりも低かったにもかかわらず、生草収量および乾物収量は標準品種より多かった。なお、乾物率は同程度であった。(表 7、表 8、表 9)

2. 九州15号：

14 号と同様に 1 番草の出穂始は標準品種より 5 日早かった。冠さび病の発生は標準品種と同程度であったものの、標準品種には発生が観られない時期にも、軽微のいもち病の発生が観られた。5 回の収穫を通して、草丈が標準品種よりもやや低かったものの、生草収量および乾物収量は標準品種と同程度であった。また、乾物率も同程度であった。(表 7、表 8、表 9)

表 7 生育特性 1

品種系統名	出穂始	越夏性	秋の被度 (%)	秋の草勢
九州 14 号	4/8	7.8	44.3	4.0
九州 15 号	4/8	7.5	41.8	4.3
ナンリョウ	4/13	7.5	37.8	3.5

注 越夏性・秋の草勢：極不良 1～極良 9

秋の被度：0～100%

平成 20 年度飼料作物、牧草類系統適応性検定試験

表8 生育特性2

番 草	品種系統名	出穂 程度	倒伏 程度	草丈 (cm)	再生 草勢	病害		虫害
						冠さび病	いもち病	アブラムシ
1	九州 14 号	7.5	1.0	72.6	7.5	1.0	1.0	2.5
	九州 15 号	7.0	1.0	74.6	7.0	1.0	1.0	3.3
	ナンリョウ	2.0	1.0	72.4	7.0	1.0	1.0	2.8
2	九州 14 号	3.8	1.0	58.4	7.5	1.5	1.3	1.0
	九州 15 号	4.3	1.0	58.1	7.3	2.0	1.3	1.0
	ナンリョウ	6.0	1.0	67.8	7.3	1.5	1.0	1.0
3	九州 14 号	1.0	2.3	79.6	7.8	3.0	1.0	1.0
	九州 15 号	1.5	2.3	78.7	7.5	2.5	1.0	1.0
	ナンリョウ	1.0	2.5	84.4	7.0	4.8	1.0	1.0
4	九州 14 号	1.0	1.0	63.2	7.8	1.0	1.3	1.3
	九州 15 号	1.5	1.0	63.7	7.5	1.0	1.0	1.0
	ナンリョウ	1.5	1.0	63.3	7.5	1.0	1.0	1.0
5	九州 14 号	1.0	1.0	57.0	7.5	1.0	1.8	1.0
	九州 15 号	1.0	1.0	56.7	7.5	1.0	2.0	1.0
	ナンリョウ	1.0	1.0	55.6	7.3	1.0	1.5	1.0

注 出穂程度：無または極少 1～極多 9、 倒伏程度：無または極微 1～甚 9、
再生草勢：極不良 1～極 9、 病虫害：無または軽微 1～甚 9

平成 20 年度飼料作物、牧草類系統適応性検定試験

表9 収量特性

番草	品種系統名	生草収量(kg /a)	乾物率(%)	乾物収量(kg /a)
1	九州 14 号	400.0	25.5	100.5
	九州 15 号	326.7	24.4	79.9
	ナンリョウ	430.9	23.9	102.8
2	九州 14 号	186.3	20.6	38.4
	九州 15 号	172.1	19.9	34.3
	ナンリョウ	199.2	19.7	39.2
3	九州 14 号	311.3	19.8	61.6
	九州 15 号	274.2	20.0	54.8
	ナンリョウ	254.6	19.5	49.7
4	九州 14 号	214.6	19.3	40.8
	九州 15 号	229.6	19.5	45.0
	ナンリョウ	164.2	19.5	31.6
5	九州 14 号	201.2	13.5	27.1
	九州 15 号	170.4	13.8	23.4
	ナンリョウ	120.8	13.0	15.7
合計 平均	九州 14 号	1313.3	20.4	268.3
	九州 15 号	1172.9	20.2	237.4
	ナンリョウ	1169.6	20.4	239.0

Ⅲ ホールクロップサイレージ用ソルガム

目 的

長野県畜産試験場で育成されたホールクロップサイレージ用ソルガムの各系統について当地域における適応性を検討した。

試験方法

「飼料作物系統適応性検定試験実施要領」（改訂5版）に基づき実施した。

1. 供試品種系統名

スーダン型ソルガム：東山交31号 ◎BMRスイート ○グリーンA
兼用型ソルガム：東山交33号 東山交34号 ◎葉月 ○スズホ
◎は標準品種、○は比較品種

2. 試験区面積・区制 1区 8㎡・3区制（3反復）

3. 栽培概要

- 1) 播種期 スーダン型ソルガム：平成20年6月6日
兼用型ソルガム：平成20年5月27日
- 2) 播種法 スーダン型ソルガム：条播（条間80cm 株間10cm）

平成 20 年度飼料作物、牧草類系統適応性検定試験

播種量 200 g / a

兼用型ソルガム : 点播 (条間80cm 株間10cm)

3粒点播 発芽後間引1本立

3) 施肥量 (kg/a)

基肥	N	0.84	P ₂ O ₅	1.48	K ₂ O	0.7
2						
早期追肥	N	0.48	P ₂ O ₅	—	K ₂ O	0.4
8						

4) 刈取時期 スーダン型ソルガム : 1番草 平成20年7月30日

2番草 平成20年9月4日

兼用型ソルガム : 平成20年8月14日

5) 管理その他

除草剤散布 平成20年5月27日 平成20年6月6日

間引き、中耕・培土 平成20年6月30日

成績

1. 気象概要

イタリアンライグラスの項参照

2. 生育概要および収量特性

スーダン型ソルガム

発芽および初期生育はグリーンAがやや悪かった。病害の発生は観られなかったものの、31号、BMRスイートで軽微なヨトウムシの被害と全種でアブラムシの付着が観られた。1番草においては生草収量、乾物収量ともにBMRスイートが最も多く、2番草でも同様であった。(表10、表11、表12)

兼用型ソルガム

発芽および初期生育はスズホがやや悪かった。全種において病害の発生は観られなかったものの、ヨトウムシの被害とアブラムシの付着が軽微ではあるが、観られた。稈長は33号、34号がともに高く、稈径は33号とスズホが太かった。生草収量は、茎葉および穂、どちらにおいても33号が最も多く、乾物収量についても同様であった。(表10、表11、表13)

育成系統の概評

1. 東山交31号:

発芽及び初期生育は良好であった。出穂期は標準品種よりも1日早く、比較品種よりも2日早かった。病害も無く、虫害も他の品種と同程度であった。草丈は、1番草2番草とともに他の品種よりも低く、稈径は、他の品種よりも細かった。収量は、1番草で最も多かったものの、2番草では生草収量、乾物収量ともに、標準品種より劣った。(表10、表11、表12)

2. 東山交33号:

発芽及び初期生育は良好であった。病害も無く、虫害も他の品種と同程度であった。出穂香川畜試報告、44 (2009)、84-96

平成 20 年度飼料作物、牧草類系統適応性検定試験

期は標準品種と同日で、比較品種より 1 日遅かった。草丈が標準品種や比較品種を大きく上回ったうえ、倒伏率も少なかった。生草収量も乾物収量も標準品種と比較品種を大きく上回った。(表 10、表 11、表 13)

3. 東山交 34 号：

発芽及び初期生育は良好であった。病害も無く、虫害も他の品種と同程度であった。出穂期は標準品種より 1 日早く、比較品種と同日であった。稈径は標準品種並みに低く、草丈が標準品種や比較品種を大きく上回り、倒伏率が標準品種並みに高かった。生草収量も乾物収量も標準品種と比較品種を大きく上回った。乾物率が高さが目立った。(表 10、表 11、表 13)

表 10 生育特性 1

区分	品種系統名	発芽 良否	初期 生育	出穂 期	収穫時ス テージ	倒伏 (%)	鳥害	病 害	虫 害	
									ヨウ	アブラ
スーダ ン型	東山交 31 号	8.3	9.0	7/28	出穂期	3.0	1.0	1.0	1.7	3.0
	BMR スィート	8.3	8.7	7/29	出穂期	4.0	1.0	1.0	1.7	4.0
	グリーンA	6.3	7.7	7/30	出穂期	3.0	1.0	1.0	1.0	4.3
兼用型	東山交 33 号	8.3	9.0	7/18	糊熟期	2.7	1.0	1.0	2.0	1.3
	東山交 34 号	8.3	9.0	7/17	糊熟期	6.0	1.0	1.0	2.3	1.7
	葉 月	7.7	8.3	7/18	糊熟期	6.7	1.0	1.0	2.0	2.0
	スズホ	7.0	7.7	7/17	糊熟期	0.0	1.0	1.0	2.3	1.7

注) 発芽良否・初期生育：極不良 1～極良 9) 病虫害：無または極微 1～甚 9

表 11 生育特性 2

区分	品種系統名	草丈 (稈長) (cm)		稈径 (mm)		茎数 (本/m ²)	
		1 番草	2 番草	1 番草	2 番草	1 番草	2 番草
スーダ ン型	東山交 31 号	228	174	10.4	8.4	50	55
	BMR スィート	230	185	10.4	9.4	53	42
	グリーンA	257	190	12.4	10.7	28	30
兼用型	東山交 33 号	154	—	14.0	—	11	—
	東山交 34 号	155	—	12.0	—	12	—
	葉 月	142	—	12.0	—	11	—
	スズホ	128	—	15.0	—	11	—

注) スーダン型は草丈、兼用型は稈長を測定

平成 20 年度飼料作物、牧草類系統適応性検定試験

表 12 収量特性 1

区分	品種系統名	1 番草			2 番草			年間合計				
		生草 収量 (kg /a)	乾物 率 (%)	乾物 収量 (kg /a)	生草 収量 (kg /a)	乾物 率 (%)	乾物 収量 (kg /a)	生草 収量 (kg /a)	対標 比(%)	乾物 率 (%)	乾物 収量 (kg /a)	対標 比(%)
スーダ ン型	東山交 31 号	415.9	26.2	108.8	225.4	18.2	41.1	641.2	90.4	23.4	149.9	92.0
	BMR スイート	483.4	24.1	116.5	225.5	20.6	46.4	709.0	100.0	23.0	162.9	100.0
	グリーンA	407.4	23.7	96.5	206.9	17.8	36.8	614.2	86.6	21.7	133.4	81.9

注) 乾物穂重割合：乾物穂重／乾物総重×100

表 13 収量特性 2

区分	品種系統名	生草収量 (kg/a)			対標 比(%)	乾物率 (%)			乾物収量 (kg/a)			対標 比(%)	乾物 穂重 割合 (%)
		茎葉 重	穂重	総重		茎葉 重	穂重	全体	茎葉 重	穂重	総重		
兼用型	東山交 33 号	143.3	39.6	182.9	133.2	33.3	70.8	41.2	47.6	28.2	75.7	134.6	37.2
	東山交 34 号	113.3	37.5	150.7	109.8	38.8	78.5	48.0	41.2	27.7	68.9	122.4	40.2
	葉 月	109.1	28.2	137.3	100.0	34.9	73.6	42.6	36.4	19.9	56.3	100.0	35.4
	スズホ	105.0	27.4	132.5	96.5	36.4	66.0	42.3	38.0	18.0	56.0	99.5	32.2